

機関番号：14202  
 研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20791725  
 研究課題名（和文） 初妊婦と実母との関係性に関する研究  
 —初妊婦の母親役割取得における実母の影響—  
 研究課題名（英文） Study of the Relationship between Primigravidas and Their Mothers  
 —Influence of Their Mothers on Primigravidas' Developmental  
 Process of Becoming a Mother—  
 研究代表者  
 岡山 久代 （OKAYAMA HISAYO）  
 滋賀医科大学・医学部・准教授  
 研究者番号：90335050

**研究成果の概要（和文）**：初妊婦の母親役割取得における実母の影響を明らかにするため、初妊婦とその実母を対象に調査を行った。その結果、実母は初妊婦との関係性において、祖母役割への意欲と、親として娘を受け止め支える意欲を持っていた。また、経験者として娘を支援する一方で、娘を母として承認し、関係性の再構築を行っていた。これにより初妊婦は、実母に対する親密性や肯定的感情を高め、実母をモデルに自己の母親像を形成し、妊娠・分娩・育児の準備を進めていくことが明らかになった。

**研究成果の概要（英文）**：The relationship between primigravidas and their mothers has been investigated in order to clarify the influence of the mothers on primigravidas' developmental process of becoming a mother. As the results of our survey, the mothers showed volition to become a grandmother, and accepted and supported their daughters. Moreover, while supporting their daughters as experienced mothers, they approved of their daughters as mothers and reconstructed the relationship with them. Thereby, primigravidas experienced closeness and affirmative feelings toward their mothers, explored the mother image model, and prepared for pregnancy, delivery, and childcare using their mothers as a role model.

#### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：初妊婦、実母、母娘関係、母親役割

#### 1. 研究開始当初の背景

##### (1) 女性の生涯発達と母娘関係

女性は重要な他者、中でも実母との関係性の影響を受けながら生涯発達していくこと

は、多数の先行研究にて報告されている。しかしながら、発達段階の1つである妊娠期から始まる母親への移行過程における実母の役割や、両者の関係性のあり方について十分に検討されていない現状がある。

## (2) これまでの研究

研究者らは、初妊婦が母親になるために必要な実母との関係性に注目し、質的・量的な研究を進めてきた。

主な結果として、初妊婦の妊娠期適応や母親としての役割取得には、実母からのサポートや実母との心理的な結び付きが重要であることを指摘してきた。

## (3) 残された課題

これまでの研究では、初妊婦と実母との関係性は、初妊婦がからみた実母との関係性のみで二者関係を評価しており、実母から見た両者の関係性については言及していない。また、実母の要因（心身の健康状態・出産育児経験）に焦点を当てた研究は行っていない。

以上のことから、実母から見た初妊婦との関係性の評価が必要である。また、実母の心身の健康状態、出産・育児経験が初妊婦の母親としての役割取得に与える影響についての分析が必要である。

## 2. 研究の目的

### (1) 目的 1

実母がとらえる初妊婦との関係性を明らかにし、初妊婦が母親になるために必要な実母の役割について検討する。

これにより、初妊婦→実母、実母→初妊婦それぞれの関係性を評価することが可能となり、妊娠期に必要な関係性の再調整、大人同士の関係性への移行をめざした支援が可能となる。

### (2) 目的 2

実母の心身の健康状態と出産・育児経験が初めて親になる娘の母親としての役割取得に与える影響について明らかにする。

これにより、妊娠中からの育児支援者としての実母の役割を提示でき、さらに実母に対する健康支援へとつなげることが可能となる。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究 1

実母がとらえる初妊婦との関係性の定性的検討

### ① デザイン

質的帰納的研究デザインとした。

### ② 対象

滋賀県下の産婦人科医院の外来にて妊婦健診を受診している産科的異常及び合併症が無いローリスクの初妊婦の実母 20 名とした。

### ③ 調査内容

半構成化面接を行った。「娘が妊娠したときの気持ち」「妊娠中のサポート」「妊娠中の娘との関係性の変化」等の内容とした。

### ④ データ収集方法

初妊婦に対して調査の主旨を説明し、同意を得た。初妊婦を通じて調査依頼書および同意書を実母に郵送し、実母の同意を得た。面接日および場所は、実母と調整し、設定した。面接時には象者の了解を得て、ICレコーダーによるインタビュー内容の保存を行った。

### ⑤ 分析方法

面接内容を逐語録にし、KJ法を参考に分析を行った。分析の妥当性確保には、母性看護の大学教員 2 名、大学院生 3 名、および臨床経験 10 年の助産師 1 名のスーパーバイズを受けた。

## (2) 研究 2

初妊婦の母親役割取得における実母の影響の検討

### ① デザイン

横断的方法による質問紙調査とした。

### ② 対象

近畿地区の産婦人科医院の外来にて妊婦健診を受診している産科的異常及び合併症が無いローリスクの初妊婦とその実母 500 組とした。

### ③ 調査内容

初妊婦

- ・初妊婦がとらえる実母との関係性尺度 (Primigravida-Mother Relationship Scale, PMRS, 岡山, 2011)
- ・夫婦愛情尺度 (菅原ら, 1997)
- ・日本語版エジンバラ産後うつ病自己評価票 (EPDS, 岡野ら, 1996)

実母

- ・実母がとらえる初妊婦との関係性尺度 (Mother-Primigravida Relationship

- Scale, MPRS, 岡山, 2011)
- ・娘との親密的・依存的関係(北村, 2003)
  - ・General Health Questionnaire12 項目版 (GHQ, Iwata et al. 1988)

#### ④ データ収集方法

妊婦健診、両親教室等において、初妊婦に調査の主旨、内容、倫理的配慮、および親子二人でのエントリーになることを説明し、同意を得た。初妊婦には、その場で同意書および調査票への記入を求めた。初妊婦を通じて実母用の同意書および調査票を実母に郵送した。実母からの同意書、調査票が返送され次第、謝礼を郵送した。

### (3) 倫理的配慮

調査に先立ち滋賀医科大学倫理委員会の承認を得た。

調査の主旨、調査協力の有無に関わらず対象者に利益・不利益が生じないこと、個人が特定されないようにプライバシーおよびデータの保護を徹底すること、得られたデータは、本調査の目的のみに使用することを説明し(実母には調査依頼文にて説明)、同意を得た。

## 4. 研究成果

### (1) 研究 1

#### ① 対象

表 1 対象の背景 (n=20)

		平均・標準偏差 人数	最小-最大
年齢	実母	56.7±5.6歳	47-61歳
	娘(初妊婦)	29.4±4.2歳	24-36歳
娘の妊娠週数		34.7±3.3w	29-40w
実母の孫の数	0人	16人	(今回が初孫)
	1人	3人	
	2人	1人	
産前産後の 里帰り予定	あり	17人	産前5ヵ月~ 産後1ヵ月
	なし	3人	

#### ② カテゴリー化

逐語録から意味のとれる一文(1544)を作成し、類似性に基づく分類からラベル(135)を作成した。さらに類似性に基づき分析を進め、カテゴリーを作成した。

実母がとらえる妊娠期にある娘との関係性は、4つの【大カテゴリー】、8つの<中カテゴリー>、及び20の小カテゴリーによって構成されていた。

### ③ カテゴリー間の関連性

実母は<出産・子育ての伝承>と<母となる娘への支援>といった【経験者としての娘への支援】を進める一方、<母になる娘の尊重>と<娘の成長の承認>といった【娘を母として承認】することを重要視していた。また<娘との距離感の試行錯誤>と<娘との関係の見つめ直し>を行いながら【娘との関係の再構築】を試みていた。さらに、実母は娘の妊娠を通じて<自身の母との関係の振り返り>と<自身の祖母像の模索>により【自身の祖母像の形成】を行っていた。

### ④ 結論

実母は、母となる娘を尊重・承認しながら、自らの経験をもとに娘への支援を行い、母娘両者の関係性が再構築されていた。これらの過程を経て、実母が祖母になることが促されていた。

初妊婦と同様に実母に対しても、母になる娘との関係性を再構築し、祖母役割への移行を促す支援が必要である。

## (2) 研究 2

### ① 対象

研究の参加同意が得られ、質問紙調査を実施した初妊婦456名のうち、434名から有効回答が得られた(有効回答率95.8%)。また、453名の実母へ調査を依頼し、356名から有効回答が得られた(回収率85.7%, 有効回答率91.8%)。ペアで有効データが揃ったのは、348組であり、これを分析対象とした。

表 2 対象の背景 (n=348組)

		平均・標準偏差 人数(%)	最小-最大
年齢	実母	57.3±5.9歳	40-72歳
	初妊婦	29.5±4.6歳	20-43歳
初妊婦の妊娠週数		22.9±8.6w	3-40w
妊娠の時期	妊娠初期	101人(29.0%)	
	妊娠中期	110人(31.6%)	
	妊娠末期	137人(39.4%)	
妊娠先行婚		82名(23.6%)	
初妊婦と実母の同居		19名(5.5%)	
実母の孫の数	0人	201人(57.8%)	(今回が初孫)
	1人	57人(16.4%)	
	2人	47人(13.5%)	
	3人以上	43人(12.3%)	
実母の子育て時代の 支援者	夫	251人	(複数回答)
	実母	186人	
	義母	150人	
	その他	188人	
産前産後の 里帰り予定	あり	241人(69.3%)	
	なし	91人(26.4%)	
	未定	16人(4.6%)	

## ② 実母の孫育て講座に対するニーズ

実母の7割が孫育てに講座に興味を持ち、4割が講座への参加希望を示した。また希望する講座の内容に関しては、「今と昔の比較」、「祖父母の役割」、「事故の対応」が上位を占めた。

現代の育児や祖母としての役割を学び、娘の育児に積極的に関わろうとする実母の意欲が明らかになった。

## ③ 初妊婦の妊娠期適応と実母関係

PMRSの下位尺度である「妊娠期適応」を従属変数とし、PMRSの残る6下位尺度、「夫婦愛情尺度」、「EPDS」を独立変数とし、ステップワイズ法にて重回帰分析を行った。その結果、妊娠初期では「EPDS」( $\beta = -0.45, p < 0.001$ )のみが有意な影響力として示された(調整済み $R^2 = 0.19$ )。同様に中期では「夫婦愛着尺度」( $\beta = 0.35, p < 0.01$ )と「EPDS」( $\beta = -0.27, p < 0.01$ ) (調整済み $R^2 = 0.23$ )、末期では「EPDS」( $\beta = -0.51, p < 0.001$ )とPMRSの「実母からの自立性」( $\beta = 0.20, p < 0.05$ ) (調整済み $R^2 = 0.27$ )が有意な影響力として示された。

初妊婦の妊娠期適応に対して、妊娠初期には抑うつ、中期には抑うつと夫への愛情、末期には抑うつと実母からの自立性が有意な影響要因であることが明らかになった。出産を控えた妊娠末期には、里帰り等で実母との関わりが増加する時期である。しかし、実母からサポートを受けながらも親になるための自立性を高められるような両者への支援の必要性が示された。

## ④ 実母がとらえる初妊婦との関係性尺度(MPRS)の開発と信頼性・妥当性の検討

質的研究(岡山ら, 2010)のモデルから、下位尺度および尺度項目を検討し、内容妥当性の検討およびプレテストを行い、4下位尺度、59項目の仮尺度を作成した。348名のデータを用い、主因子法、プロマックス回転にて因子分析を行った。その結果、尺度は「祖母役割への意欲」、「経験者としての娘への支援」、「娘の承認と関係性の再構築」、「親として娘を受け止め支える意欲」の4下位尺度、24項目で構成された。因子抽出後の共通性は0.20以上、因子負荷量は0.40以上であった。また下位尺度の内的整合性による信頼性( $\alpha = 0.73 \sim 0.80$ )が確認された。さらに下位尺度と、娘との親密的・依存的関係尺度である「娘との親密性」( $r = 0.26 \sim 0.40, p < 0.001$ )および「娘への過剰な依存」( $r = -0.47 \sim -0.18, p < 0.001 \sim 0.01$ )との相関から、併存妥当性が確認された。

MPRSの信頼性と妥当性が検証され、これにより両者の関係性の定量的評価が可能となった。

## ⑤ 実母の心身の健康状態と初妊婦の母親役割取得との関連性

GHQ(実母)の「不安・抑うつ」は、PMRS(初妊婦)の「実母との親密性」、および「実母を介した母親像モデルの探求」と、またGHQの「活動障害」は、PMRSの「実母との親密性」、および「実母をモデルとした妊娠・分娩・育児準備」との負の相関を示したが、いずれも係数は低く、関連性は弱い結果であった。

実母の心身の健康状態と初妊婦の母親役割取得との直接的な関連性は示されなかった。

## ⑥ 実母の出産・育児経験と実母がとらえる初妊婦との関係性の関連

実母が育児をしていた時代に、自身の実母が主な支援者であった者( $n = 186$ )は、そうでなかった者( $n = 162$ )よりも、MPRSの「経験者としての娘への支援」および「娘の承認と関係性の再構築」が有意に高いことが示された( $p < 0.01 \sim 0.05$ )。

自身の実母が主な育児支援者であった実母は、出産・育児の経験者として初妊婦にサポートすることや、娘を母親として承認し、娘との関係性を再構築しようとする意欲が高いことが明らかになった。

## ⑦ 実母がとらえる初妊婦との関係性と、初妊婦がとらえる実母との関係性の関連

MPRS(実母)の「経験者としての娘への支援」と、PMRS(初妊婦)の「実母からのサポート」、「実母との親密性」、「実母に対する肯定感」、「実母を介した母親像モデルの探求」、および「実母をモデルとした妊娠・分娩・育児準備」との有意な正の相関( $r = 0.25 \sim 0.41, p < 0.001$ )が示された。また、MPRSの「娘の承認と関係性の再構築」と、PMRSの「実母に対する肯定感」、および「実母をモデルとした妊娠・分娩・育児準備」との有意な正の相関( $r = 0.22 \sim 0.23, p < 0.001$ )が示された。

実母が出産・育児の経験者として初妊婦にサポートすることや、娘を母親として承認し、成長した娘との“母親同士”としての関係性を再構築することにより、初妊婦は、実母に対する物理的・心理的な親密さや、実母に対する共感・感謝・尊敬と行った肯定的感情を高め、実母をモデルに自己の母親像を形成し、妊娠・分娩・育児の準備を進めていくことが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

## 〔雑誌論文〕（計 2 件）

- ① 岡山久代、初妊婦と実母との関係性尺度（Primigravida-Mother Relationship Scale）の開発と信頼性・妥当性の検討、日本看護科学学会誌、31 巻、1 号、3-13、2011、査読有
- ② 岡山久代、初妊婦と実母との関係性尺度の開発に関する予備的研究、滋賀母性衛生学会誌、8 巻、1 号、56-61、2008、査読有

## 〔学会発表〕（計 5 件）

- ① 岡山久代、正木紀代子、能町しのぶ、斉藤祥乃、土川祥、初妊婦の実母関係と夫婦関係および抑うつとの関連－妊娠期間適応に対する影響－、日本助産学会第 1 回（第 25 回）学術集会、2011. 3. 5、名古屋
- ② 寺坂多栄子、淵元純子、正木紀代子、斉藤祥乃、土川祥、岡山久代、初妊婦の実母の孫育て講座に対するニーズ調査、第 20 回滋賀県母性衛生学会学術集会、2011. 1. 29. 大津
- ③ 岡山久代、正木紀代子、能町しのぶ、井口由美、二宮早苗、齋藤祥乃、土川祥、実母がとらえる初めての妊娠を経験する娘との関係性の質的分析、第 51 回日本母性衛生学会、2010. 11. 5、金沢
- ④ Hisayo Okayama, Mari Takahashi, Changes in Primigravidas' Relationship with Their Mothers during Pregnancy -A Comparison by High and Low Group of "Support by Mother" -, 16th International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, 2010. 10. 30, Venetia.
- ⑤ 藤岡美絵、岡山久代、玉里八重子、里帰り分娩に伴う妊産婦と母方祖母の疲労についての縦断研究、第 24 回日本助産学会学術集会、2010. 3. 21、つくば

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岡山 久代 (OKAYAMA HISAYO)  
滋賀医科大学・医学部・准教授  
研究者番号：90335050